

平成29年12月15日(金)

老球の細道377号

会津地区高校新人大会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

政治の世界だけでなく何事も「一強」というのは決して良い状況ではないと思う。その地区のみならず、その当時者チームにとっても競争のない状態は、その次のステージ、その次のレベルのことを考えても好ましい状況ではないだろう。

先日バスケットボール会津地区高校新人大会を観戦した。いつも楽しみなのは「アップセット」(番狂わせ)である。会津地区ではここ数年男女とも若松商業高校の「一強」が続いている。新人戦からはメンバーが大幅に変わるので、今回はアップセットがあるか楽しみに出かけた。男子の決勝リーグ進出においては多少のアップセットはあったが、優勝は今回も男女とも若松商業の圧勝に終わった。選手層の厚さ、トランジションの速さ、ディフェンス力の強さで若松商業に一日の長があったようだ。

閉会式において、高体連部会長、会津協会長が不在だったので、一応名前だけ地区副会長の私が表彰と講評を行った。表彰状の読み方を間違えたりしながら、なんとか表彰を終え講評を述べた。特に、いつも負けてばかりで勝てないチームや、これから強いチームを負かそうと燃えているチームのために次のような話をした。

バスケットボールのゲームで勝敗を決する重要な要素は何か。それはディフェンスとリバウンドにある。最終的に得点で勝敗が決するのでシュートが最も大切だと思われがちであるが、シュートというのは不確実性大で入る時もあれば入らない時もあり、あまり信じられる要素ではない。「シュートと噂は信じちゃいけない」。ここで笑いがとれると思ひ、選手たちの顔をチラッと見たら真顔で聞いていたので通じなかった。

話は前に戻るが、シュートは入っても3割から4割、半分以上は落としていく。この落とししたシュートのリバウンドを取ってセカンドシュートで得点を重ねるのが強豪チームの特徴。だからディフェンスリバウンドを頑張ることが強豪チームを破る重要なポイントになる。また、シュートはディフェンスのプレッシャーで確率はさらに落ちる。だからバスケットボール格言にあるように「バスケットの面白さはオフェンスに、勝負の面白さはディフェンスにあり」「リバウンドを制するチームはバスケットボールを制する」となる。

ディフェンスとリバウンドには面白い特徴が二つある。一つは、「やり過ぎてもコーチから怒られない」ことである。ドリブル、パス、シュートはやり過ぎると「何やってんだー！」とコーチの罵声のとぶ。しかし、いまだかつてリバウンドに跳び過ぎ、ディフェンスをしつこくやっているプレイヤーにコーチの賞賛の声以外に罵声を聞いたことはない。

二つ目は、「ボールを扱わない、上手なボールハンドリングを要しない」ので誰でもがなされる。特にスキルが苦手でも、初心者でも頑張ればチームに貢献できる。

多くのチームのゲーム前練習やハーフタイム練習を見ていると、ディフェンスとリバウンドの練習を全力でチャレンジしているとは思えない状態である。普段の学校の練習においても同じような状態だろう。バスケットはハビットゲーム。習慣が本物の力を作る。

敗北の惨めさは誰でも同じ。自信をなくしたり失望したりする。そこから勝利を手に入れるのは負けても奮起する者だけである。ディフェンスとリバウンドに真剣に向き合うことがアップセットとミラクルを起こすと信じている。